

勘違いから真理へ(マタイ 19:16-22)

「やればできる。夢は必ず叶う。諦めなければ、いつかは必ず叶う」と叫んで、多くの人を励ましたり、また勇気づけることがあります。それは非常に良いことだと思います。しかし、もしそれが絶対不可能な事柄だった場合、そこに向かってやればできる、夢は叶うと励ますと、結局勘違いを誘発し、最終的には疲れて重荷を負うことになるでしょう。その勘違いが小さいものであれば笑って済ませるかもしれませんが、しかし、その勘違いが人生の幸せと救いに関するものであれば、それは取り返しのつかない勘違いになってしまいます。

今日の聖書を見ますと、ある金持ちの青年がイエス様を訪ねてこのように問いかけます。「私がどんな良いことをすれば永遠のいのちが得られるのでしょうか」と聞きました。その時にイエス様が、「なぜ良いことに対して私に聞くのか。良い方は神様以外にはいらっしゃらないから」とおっしゃって、「あなたがいのちにはいたいと願うなら戒めを守りなさい」とおっしゃいました。青年は「どのような戒めでしょうか」と聞きます。それでこのような、このようにいくつかの戒めをイエス様がおっしゃいました。すると、この青年は「そういうことならもうとっくにしっかりと守っています。何が欠けているのでしょうか。何がまだ足りないのでしょうか」と、逆に開き直ったような感じでした。そこでイエス様が「あなたがいのちにはいたいのであれば、あなたの財産を全部売り払って貧しい人に施し、それから私についてきなさい」とおっしゃいました。すると、今まで勢いよく迫ってきていた青年の顔が暗くなり、心配になってそのままその場を去っていったと書いてあります。理由は、彼は財産がたくさんある青年だったからだと言われています。この聖書の箇所を通して、この青年は入り口から勘違いをして、勘違いのパレードのようなことが読み取れます。なので、これを通して、なぜ青年はものすごく真面目で真剣だったにもかかわらず、最初から勘違いして、またずっと勘違いして、最終的には悲しい顔をして帰ってしまったのかということを確認して行きたいと思います。それが私たちに今語っていらっしゃる神様のメッセージです。

その第1は、イエス様を知らないとどんな人間でも勘違いの中でさまよいつつ、結局滅びるしかないということです。

この青年は真面目に真剣な思いでイエス様に問いかけました。にもかかわらず、その青年は目の前にいらっしゃるイエス様がどういう方なのか分かっていませんでした。どこでそれが分かるのかと言いますと、「私はどんな良いことをすれば、永遠のいのちに預かることができるのでしょうか」と聞いた時に、イエス様が「なぜ良いことを私に聞くのか。良い方は神様以外にはいらっしゃらない」とおっしゃいました。おかしくないでしょうか。イエス様ご自身が、神様なのです。神様が人となられたキリストなのです。もしこの青年がイエス様のことが分かっていたとすれば、イエス様はこのような反応をしてなかったでしょう。イエス様が今このように不思議な反応をしていらっしゃるの、この青年が今日の前にいらっしゃるイエス様のことが分かっていないということの裏返しのようなものなのです。イエス様のことが分かっていないまま、どれほど真面目に考えて、どれほど真剣に取り組んだとしても、それは最初から勘違いになります。私たちはなかなか認めたくないでしょうけれども、それが人間の限界というものです。どんな学者でも、政治家でも、哲学者でも、思想家でも、宗教家でも、イエス様を正しく知らない限り、入口のほうから勘違いになるしかありません。この青年はどのような勘違いをしているのかと言いますと、私が何をすればというふうに問いかけました。何をすれば私が。つまり、人生の幸せと不幸は自分自身によって人に左右されるものだと思っているわけです。これが勘違いです。私が何をすれば、私がどうすればというふうに、入り口を切って入ろうとしているのです。これが地上のすべての人の勘違いです。なぜ私が何をすればという問いかけに走ったのでしょうか。しかも真剣な思いで。もちろんいろいろな悩み、また、いろいろな飢え渴きがあったかもしれませんが、本当の理由は目の前にいらっしゃるイエス様のことが分かっていないからです。イエス様のことが分かっていないと、どれほど研究して、どれほど真剣に悩んだとしても、最初から勘違いになります。だから悩む理由なども本当はありません。しかし、人々は知らないから、自分なりに真剣に悩みもがき暴れています。この青年は、人の人生の幸せと不幸が人によって左右されるか

のように思っていたわけです。人がこうすればこうなる、ああすればああなるというふうに思っているわけです。それが勘違いだったわけです。

それからもう一つの勘違いは、そこから端を発したものですけれども、私がどんな良いことをすれば幸せになれるのでしょうか。どんな良いことをすれば報われて、永遠のいのちにはいることができるのでしょうかと聞きます。つまり、人は良いことができるものだという前提を持っているわけです。だから、どのような良いことをすればいいのでしょうかと聞いたわけです。皆さんの顔を見ると、どこが勘違いなのか、何がおかしいのかという顔をしていらっしやいます。それほど私たちもその世界をくぐってきたものだし、たっぷりはまって染まっていたものだという証拠なのです。だから、慎んでメッセージを聞かなければなりません。聖霊によらずには悟ることができません。研究によっては悟ることはできません。人は良いことができる、つまり人には可能性があり、希望があるよと思っているわけです。なぜそう思うのでしょうか。イエス様のことが分かっていないからです。イエス様のことが分かっていないと、分かっていることすべてが勘違いです。知らなかったでしょう。だからイエス様のことを正しく知らないのに悩んだり成功しようともがいたり、喧嘩したり、何が正しいか正しくないかと争ったりということはすべて勘違い、すべて愚かなことになるのでやめましょう。と言われてもなかなか難しいでしょうけれども、だからメッセージをよく聞いて自分のものにしましょう。人は本当に良いことができるものなのでしょうか。できるのに知らないから、どのような良いことなのか内容が分かっていないから良いことができないのでしょうか。あるいは良いことができるものなんだけれど、できるものとできないものとに分かれるのでしょうか。それが勘違いなのです。人にこれっぽっちでも可能性、良いところ、希望があると思うところが勘違いです。でも、これがとてもとても当たり前で、とても当然で自然でそうなっています。世間では。誰一人それが勘違いだと思う人はいません。それが怖いものなのです。イエス様を知らないこのような勘違いに走るようになります。だから、イエス様は本当はこれ以上、会話を続ける理由がないのに、イエス様が次のことをおっしゃいます。そう？という感じで「ならば戒めを守りなさい」と。そこまで行くと、本当はダメなんですけどね返事をするのが一番正直な反応です。なのに、この青年は戒めを取り上げると、何か待っていたかのように「それはもうとっくに守っていますよ」と答えました。神様の戒めを守ったというのが勘違いなのです。文字通りに行ったからといって神様の戒めを守ったわけではありません。なのに、この青年はイエス様のことを知らないのに、神様の戒めを守ることができると思っているし、守ったと勘違いしているわけです。イスラエルの人々は、今でも神様の戒めを自分たちが守れるものなんだと思っているわけですね。だから、イエス様を信じることは拒みます。神様の戒めを守れると思っている限りはイエスはいらないのです。イエスが目障りになるのです。教会に通っていても、イエスと仲良くなることができません。この青年は勘違いしていました。ルール通りに文字通りに言われた通りに、その通りにすれば、それが守ったと思うのは勘違いです。姦淫の罪を犯してはいけません。私は今まで人生の中で一度も女性に、男性に手を出したことがありません。だから守ったと。イエス様は、女性を見て異性を見て心が動いただけでも姦淫だよと仰っているので、誰がどこを何をどういうふうにしたことでしょうか。人の勘違いなのです。なぜそのような勘違いを当然だと思い、それが正解だと思ひみな勘違いしているのでしょうか。イエス様のことが分かっていないからです。それでイエス様があなたの財産を売り払って貧しい人を助けて、それからわたしについてきなさいと、イエス様がおっしゃいました。イエス様について行くことがいのちに預かることなのです。そのためにそれより大切なものはないということですね。すると、今まですべてを守ったと堂々と威張っていた青年が心配になって帰っていきました。つまり、この青年はお金が自分の人生を守ってくれる、お金がものをいうと思っているわけです。世界中のすべての人がそうではないでしょうか。これが勘違いです。なぜそう思うのでしょうか。お金がものをいうというように、なぜみな思うのでしょうか。イエス様のことが分かっていないからです。ちょっとだけ考えても、この青年は入口のほうから勘違いでスタートし、勘違いのオンパレードだったということがここでお分かりになると思えます。なので、自分がどれほど真剣か、どれほど真面目なのかは二の次のことなのです。イエス様を知らない限りは、そのすべてが結局は答えのないものがきになるし、入り口から間違ってしまうようになります。残念なのは、この勘違いが信者の中にも依然と流れているということが非常に残念なことになります。この勘違いは青年だけに限るものではありません。時代と国を超えて、全人類がこの勘違いの中に陥っています。そして、それを当たり前な思想として全人類がどこの国、どこの民族、どこの時代も拒否することなく共通してそれを信じているのです。そのまとまった思想が、因果応報というものです。それは勘違い中の勘違いです。人が主体になって、人によってこれがこうなり、あれが

ああなりと人が主体なのです。なぜなら神様を離れて神を失った結果なのです。しかし、みなが生まれながら、神のないまま生まれて空中の権威が作った世の流れに流れていたものなので、その勘違いが正解になっているのがこの世界なのです。人が主体になると勘違いになるしかありません。どんなに世の中で正しいと言われて、また、どんなに真剣に考えたとしても勘違いなのです。

最後に今日読んでないけれども、弟子たちとイエス様の会話の中で、金持ちが天国に入るにはラクダが針の穴を通るより難しいということをおっしゃいました。それは金持ちはダメという意味ではありません。イエス様を知らないと、勘違いの中にと、むしろ人間的に良いと思われるもの、それが逆にダメージになり損になるんだということなのです。これが聖書が私たちに語っているメッセージです。この青年は非常に大きな取り返しのつかない勘違いをしていたわけです。冒頭で申し上げましたように、小さな勘違いの場合は笑って済ませればそれで終わりです。でも、人生の幸せと救いに関しての勘違いの場合は、取り返しがつかないものになります。しかも彼はお金、まじめさというものを取り上げて勘違いに走っていました。勘違いになるんだったら逆に、姦淫の罪を犯した方がいかもしれません。目が見えないバルテマイのような無視される人間になる方がよろしいかもしれません。イエス様の片側の殺人強盗のようになった方がよろしいかもしれません。勘違いになるなら。そっちの方がその勘違いに走る余地は削って削られていくのではないのでしょうか。これが天の御国の法則なのです。だから人間的な原理と法則をもって、それが当たり前だと思われているものをもって神様のメッセージを聞きますと、イエス様の十字架のお話を聞きますと、それがはじかれるようになるわけです。聖書は私たちに少しも迷わずに語っています。イエス様を知らない限り、人はどのような人間も勘違いの中をさまよって滅びていく、裏返しますとこうなります。

2番です。イエス様を正しく知る時、どのような人間でも勘違いが崩れて、さまよいの人生が終わります。

さまよいの人生が終わり、勘違いから抜け出す方法は、イエス様を正しく知ることにあります。勉強するから勘違いが崩れるわけではありません。イエス様はどういう方なのでしょう。イエス様はキリストです。イエス様がキリストだということは、人間には到底解決不可能な悪魔のしわざ、地獄ののろい、そして、罪、この問題を解決するために神様が人間となられてこの世に来られたという意味です。イエスがキリストと分かったその瞬間から、なるほど、人には絶対できないから人の代わりに十字架を背負われたんだね。それがイエスはキリストという意味でしょう。皆さん、イエス様をキリストと信じていらっしゃるのでしょうか。キリストの意味は何でしょうか。あなたには不可能だから、あなたは徹底的に根っこが腐ってる罪人なので、あなたはできないから、あなたのどうのこうではなくて、代わりに罪のないキリストが十字架で死ぬつもりで世に来られた、その方がキリストなのです。イエスはキリストという言葉の裏には、私たちは何をどうするかというこの問いかけすらできない罪人なんだということが明白ではないのでしょうか。イエスはキリストです。イエス様を正しく知れば、この青年がイエス様はキリストだと分かっていたら、この勘違いはなかったでしょう。私が何をすればどんな良いことをすれば、守った、守ってなかったというようなことはなかったでしょう。それを言う資格もないし、その世界そのものがありません。イエス様が正しく分かった、イエスがキリストだと分かるとすれば、自分はイエス様が十字架で死ななければいけない程の罪人なんだね。だから、イエス様の十字架を見ない限りは、真理は理解できません。イエス様の十字架からスタートしないと、すべてが勘違いになります。なぜ悩んでいるのでしょうか。悩めると思っているから悩むでしょう。悩むとどうにかなると思うから悩むのではないのでしょうか。イエス様の十字架を見上げ、イエス様がキリストだと本当に心から告白できるものは、そういうすべてが全部崩れてしまいます。何も残らないで一つだけ私は罪人なんだとなります。イエス様が誰かが分かっている人は、私が何をすれば、あなたがどうのこうのなど、人に期待などはありません。このように告白します。イザヤ64:6「私たちはみな、汚れた者のようになり、私たちの義はみな、不潔な着物のようです。私たちはみな、木の葉のように枯れ、私たちの咎は風のように私たちを吹き上げます」。ここで私が何をすれば、どんな良いことをすればということが言えるのでしょうか。そのすべてが勘違いだということを本当に徹底的に心に刻むようにしましょう。ダビデも言いました。詩編51:5「ああ、私は咎ある者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました」。これが一番正直な自分、正直な告白です。ここが認めたくない場合は、ずーっと勘違いです。ずっと自分が主体なのです。自分から自由に

なることができません。パウロのような伝道者も言いました。ローマ7:24、「私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか」。皆さん、自分のことをこのように素直に認めて告白したことあるのでしょうか。もし本当にあるとすれば、私が何をどうすればという質問は消えてなくなるでしょう。私がどうのこうの、私がこうしたからこうなって、ああしたからああなった。自分中心、因果応報の縛り。ここから自由にならないといけません。そこに囚われているから他の人のせいにしたり、全部が人間中心になります。そこに悪魔もサタンものろいも見えません。憎しみと恨みと傷だけが残るわけです。悪魔の見事な策略なのです。イエス様を本当に正しく分かっている人は、このように告白します。それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、一切のことを損と思います。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくとと思っています。それはすべてはちりあくとなんだ。何を取り上げられるのでしょうか。何を比べることができるのでしょうか。すべての勘違いが崩れて重荷を下ろして自由になります。イエス様のことが分かった時に、イエス様が本当にキリストなののでしょうか。今難しい神学的な話、また難しい解説などを行っているわけではありません。皆さん、イエス様を信じているから、この場に来て礼拝を捧げているのでしょうか。イエス様はだれなののでしょうか。なぜイエス様を信じているのでしょうか。イエス様はキリストなのです。私には不可能だから。私は一点足りとも良いことができない罪人だから、イエス様が代わりに十字架で死なれました。イエスはキリストなのです。そこでわたしがどこでそれを取り上げられるのでしょうか。自分自身に縛られて自分の条件に縛られて、人のどうのこうのに縛られていて、人を助けることができるのでしょうか。これを真理と言います。だからイエス様は真理があなたがたを自由にしますとおっしゃいました。多分、これから小林真理がレムナントの皆さんを自由にしてあげるかもしれません。本当に真理が真理を語るのであれば。だからすべての勘違いが崩れて、青年の勘違いのようなものがすべて去っていき、このように告白するようになります。ローマ1:17「なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです」。皆さん、信仰によって生きるというのは、今までのすべての勘違いが崩れて、その勘違いの世界の中にはなかった新しい法則なのです。信仰によって生きるわけです。私が何をどうすればどうなるかではなくて、イエス・キリストと神様の救いを信じる信仰によって幸せになり、信仰によって救われ、信仰によっていやされて、信仰によって人生が変わり、信仰によって人生の勝利が得られるようになります。なので、イエス様の前で私が何をすればいいのでしょうかという質問などは、もう私たちのものではなくてこのようになります。「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」(ヨハネ1:12)。ここにのみ永遠のいのちがあります。わたしは真理であり、いのちであり、わたしを通してでなければ、イエス様が誰なのか分かっていないので、教会に通いながらも、私はイエス様を信じますよと言いながらも、青年のような勘違いの中でずっとさまよっているのです。荒野から抜け出すことができません。残念ながらレムナントなのに、信者なのに。素直に考えましょう。イエス様の十字架を前にすると、自分が主体となっていたその勘違いは恥ずかしいものになります。結局、勘違いは人間が主体となることから始まります。人間が主体となるというのは、人間にこれっぽちでも可能性があるという前提でスタートしたものなのです。聖書は徹底的にそれを否定して潰してしまいます。先週も申し上げましたように、だから人と人を比べたり比較するということは愚かなことです。イエス様を知らないからです。人の外見的な条件などもイエス様を知らないが良い条件の方がマイナスになる可能性があるわけです。だから高慢になることも落胆することも威張ることも何もありません。何で高慢になれるのでしょうか。イエス様が誰なのか分かっていないからでしょう。自慢できるものが皆さんの中にあるのでしょうか。逆に何で落胆しているのでしょうか。誰と何を比べて落胆しているのでしょうか。イエス様を知らないからです。ほかのなにかに焦点を合わせないで、イエス様にスポットを合わせるようにしましょう。

イエス様を正しく知ると、勘違いが崩れて信仰を告白するようになります。この時からフォーカスが変わります。人から神様、自分から神様へと主体が変わります。自分がどうのこうのではなくて、また努力から神の恵みの方にフォーカスが変わります。人間の行いがどうのこうのではなくて、信仰の方にフォーカスが変わります。だから、青年のように私がどんなことをどんな良いことをという考えが崩れて、神様が私のためになさった救いがなんなのか、それを信じる信仰の方に走るようになります。これが幸せの秘訣なのです。いつまで経っても自分が何をどうすれば、これをしてないから、

これが足りないからとずっとその中にいて人間が主体となると100%勘違いになります。そこからフォーカスを移動して、自分がどうのこうのを全部押さえて、神様がなされたこと、神様が何をどうしたのか、イエス・キリストが十字架で何をどうしたのか。そこを受け入れること、そこを信じるのが信仰です。そこにまことの自由があります。なので、レムナント教会の皆さん、勘違いから抜け出して自由になりましょう。これからは人の条件に囚われることなく、イエス様をキリストと信じる信仰に集中しましょう。どうのこうのうという条件に囚われないで。言葉を変えますと、すべての言い訳、不平不満など全部捨てて、神様が私のために行われた救いの祝福を信じる信仰にスポットを当てて、フォーカスを合わせるようにしましょう。これがクリスチャンです。これがキリスト教です。キリスト教は宗教ではありません。宗教の正反対です。私たちの中には罪の本性として宗教的な本能というものがあります。因果応報。そこを気をつけながらイエス・キリストの十字架をスタートにして、イエス様はキリストだという信仰告白を一番にしないといけません。そうしないとすべてが勘違いなのです。これから信者としても、自分が何をどうすればと悩まないで、神様が私に働かれるように主を見上げてください。神様が主体なのです。神様が私に働かれるように。それを祈りと言います。祈りは宗教的な行為ではありません。私がどうすればではなくて、神様はキリスト・イエスを通して、私たちの代わりに私たちの救いを完成させて一方的に全部与えられました。今の神様はその祝福をもって私たちを強め、私たちを用いて世界を変えていらっしゃる方なので、神様が私に働かれるようにお祈りするクリスチャンになりましょう。どのようなお祈りをすればいいのでしょうか。こうしてください...そうではありません。それは正反対です。私が何を知ればなんです。神様が私に働かれるように。御座の祝福が臨まれるように。今全部説明しなくても、3.9.3を祈ることです。つまり、神の御座の方に私を入れること、神の御座が私の中に臨まれること。それが祈りです。神がなされること。神がなされるから私は祈るわけですね。信仰と祈りと全部繋がる単語なのです。そして、未来のことも不安に思わないで、未来をどうするかと悩まないで、これから神様が未来を動かして神の計画通りになされるわけですね。神様がなされること、それを契約と言います。それを神のみことばを通して確認して、あらかじめ握って歩いていだけなのです。皆さんの未来が皆さんの夢通りに、以前通りに描くものではなくて、皆さんのどうのこうのがありません。神様が未来を備えていらっしゃるって、神様がなされるわけだから。それを御言葉を通してこうするよという契約をなさいます。それを発見すること、それをCVDIPといいます。難しく思わないで自分を捨てるように。自分に縛られないように。自分を言い訳にしないように。条件を不満にしないように。それはキリスト教の一番基本的な方針から外れることです。どんなに人間的に足りない人間でも構いません。どんなに惨めな人間でも構いません。それは私たちに言い訳も何もありません。何にもなりません。なので、義人は信仰によって生きる。勘違いから解放されてイエス・キリストを告白して、神様がなされること、なされたこと、神様がなされること、それを見上げつつ、それに用いられる勝利者になりましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今礼拝を捧げているひとりひとりの根深い勘違いが壊れてイエス・キリストの告白とともにそこから自由になって神様の完璧な救いを祝福、これからなされる完璧な神様のご計画、その中で自由に用いられるようにひとりひとりを祝福してください。不平不満、言い訳すべてが崩れて、ただ信仰による確信と希望と愛が溢れるように御座の祝福をもって、ひとりひとりを治めてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン